



空港整備事業



松山空港

MATSUYAMA AIRPORT

概要

松山空港は、四国最大の人口約50万人を抱える松山市にあり、市内中心部より西へ約6kmの臨海部に位置し、市内のみならず松山港とも近接しており、アクセスが良好な空港として知られています。

昭和35年に1,200メートル滑走路を有する第二種空港としての供用開始後、民間航空の利用が盛んになり、これに対応するため昭和47年には滑走路を2,000メートル、平成3年には滑走路を2,500メートルに延長し、大型機が就航可能な空港になりました。現在は、国内外12路線の定期便が就航しており、中四国で最も旅客数の多い空港へと成長しています。

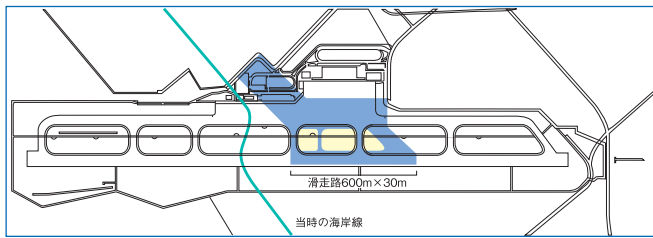
現在、松山空港のエプロン（飛行機の駐機場所）は格安航空会社（LCC）の就航や小型多頻度化により狭あい化しているため、更なる需要の取り込みに向けて拡張工事を実施しています。

沿革

- 昭和16～18年 ◎旧海軍の航空基地として建設（滑走路600m×30m）
- 昭和33年 ◎空港整備法に基づく第二種空港に指定
- 昭和35年 ◎空港整備法に基づく第二種空港として供用開始（滑走路1,200m×30m）
- 昭和47年 ◎2,000m滑走路の供用開始、中四国地方で初めてジェット機が就航
- 昭和54年 ◎初めての国際チャーター便が就航
- 平成3年 ◎2,500m滑走路、新ターミナルビルの供用開始
- 令和元年 ◎国際線ターミナルリニューアル、松山-台北便が就航

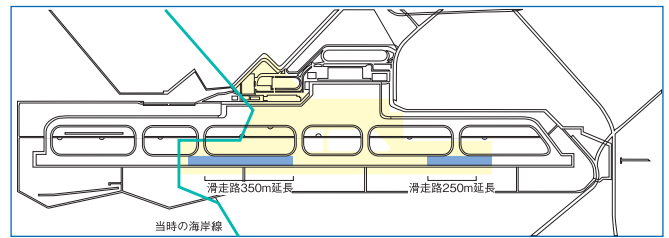


空港整備の変遷



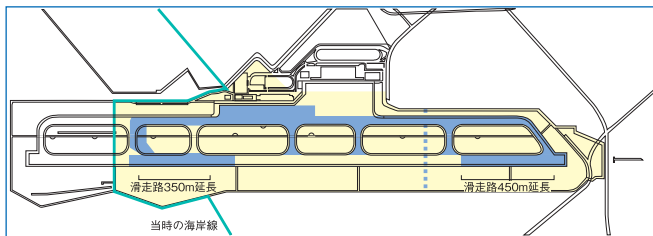
◆滑走路600m時代

昭和16年から18年にかけて、旧海軍の航空基地として建設されました。終戦後は、小型機用の連絡飛行場として使用され、昭和27年の接収解除後は、極東航空KKが大坂線を開設しました。



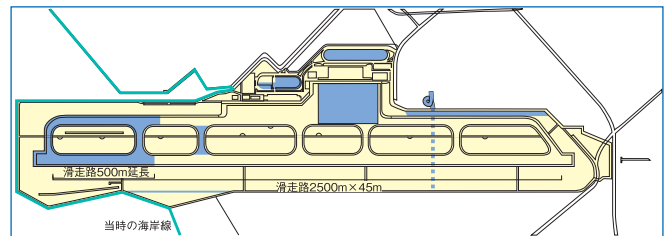
◆滑走路1,200m時代

滑走路・誘導路・保安施設等の整備後、昭和35年10月、第二種空港として滑走路1,200mで供用を開始しました。



◆滑走路2,000m時代

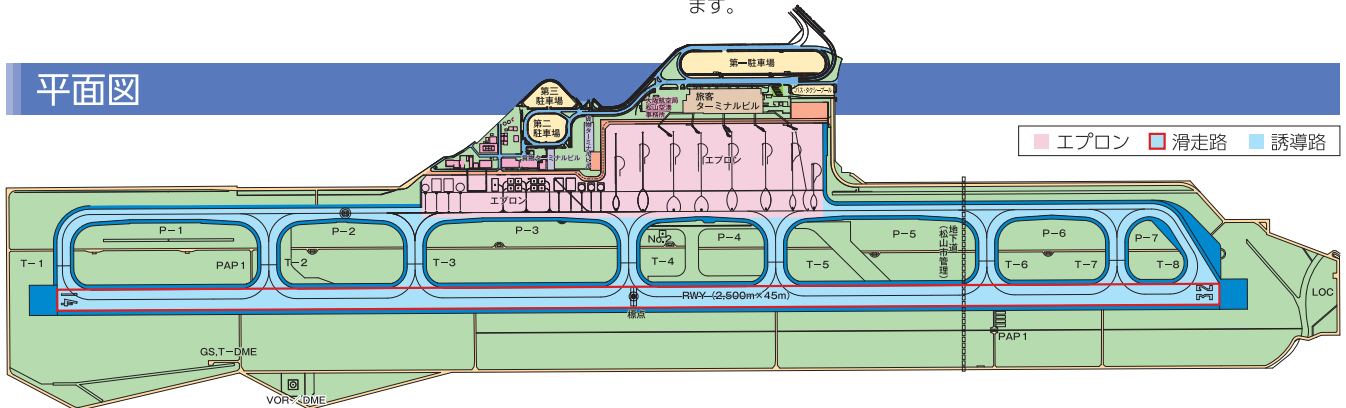
滑走路を45mに拡幅・嵩上げするとともに、誘導路・エプロンの新設・護岸・埋立工事、地下道の新設等を行い、昭和47年4月、滑走路2,000mで中・四国初のジェット化空港として供用を開始しました。



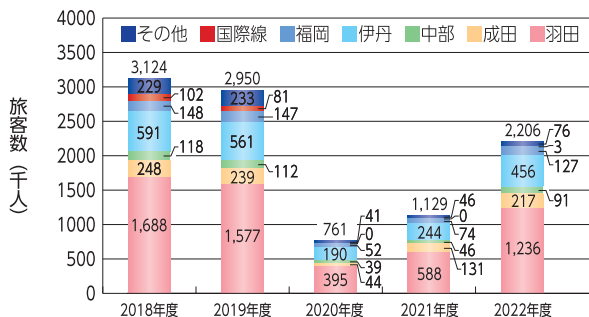
◆滑走路2,500m時代

護岸・埋立工事、滑走路、誘導路、エプロン、道路駐車場の新設・改良等を行い、平成3年12月に滑走路2,500mとして供用を開始しました。その後、エプロン、取付誘導路等を整備し、平成5年度に拡張整備を完了しています。

平面図

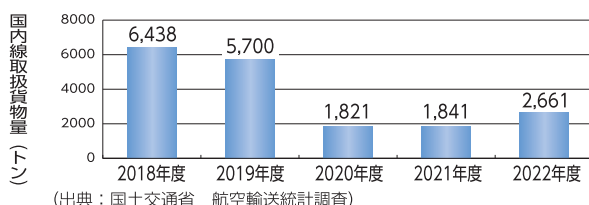


旅客推移



※その他とは、札幌、仙台、関西、鹿児島、那覇の合計である。
(出典：松山空港ビル(株)HP)

取扱貨物量推移 (国内)



(出典：国土交通省 航空輸送統計調査)

就航航路

